

③

平成28年度

認知症カフェが
志免の各地域にできたらいいな！
事業

NPO法人 ウェルフェアだんだん

×

志免町 福祉課

事業の概要

① 勉強会と体験の場の提供

NPOが独自に行う認知症カフェを活用して、認知症への理解や地域とのつながり、認知症カフェの運営等について、福祉課とNPOが講師となって勉強会を開催。

② “つどい場” づくり講演会の開催

日時 平成28年11月23日 志免町役場 小ホール

講師 丸尾多重子 氏 (NPO法人 まじくるつどい場さくらちゃん)

参加者 90名

目的：認知症カフェを担う人材育成と
認知症カフェ開設の促進

対象：地域住民・認知症サポーター

手段：勉強会と講演会の開催

福祉課

- 認知症サポーターのフォローアップ研修のあり方の検証
- ニーズの高い地域の選定
- 既存認知症カフェとの連携支援
- 認知症サポーターへの案内通知
- 地域（町内会）との調整
- シンポジウム会場の確保、手続き
- 認知症や認知症サポーターに関する情報提供
- 広報誌、HPなどでの広報・報告

NPO法人 ウエルフェアだんだん

- 事業計画立案
- 認知症講座実施
- ボランティア受け入れ
- シンポジウムの計画と実施
- 住民レベルのつどい場づくり支援
- 人財の発掘と育成
- 保険の加入

事業が生まれたきっかけ

- ・ 認知症の方や介護する家族は孤立しがちである。
- ・ 「認知症カフェ」が期待されているが、町内にはまだその機能を持つつどい場がほとんどない。

福祉課

認知症の相談が
役場外でもできれば！

認知症の方が住みなれた
地域で暮らせる町にしたい！

新オレンジプラン
福祉課だけで進めるものか？

だんだん

つどい場をたくさんの
人に知らせたい！
仲間を増やしたい！

担い手や地域などの情報は、
団体だけではわからない

事業の様子



成果

事業を行ったことで「認知症カフェを担う人材育成と認知症カフェ開設の促進」は怎么样了？

- 認知症カフェの運営に協力する人材を発掘できた。
- 受講者が運営の一部を任せられるボランティアとして活躍するようになった。
- 認知症カフェを担う人材育成プログラムを試行することができた。今後、改善の予定！
- 町広報、窓口での紹介（連携）、講演会により、事業と団体の認知度が高まった

認知症カフェやつどい場に関する 参加者・関係者の意見

- 講演会参加者から

「なぜつどい場が必要なのかよく理解できた」

「自分の介護・看取り経験と重なり、あの時こんな場所があったなら、と強く思った」

「高齢者が安心してその人らしく生きられる志免町を作りたい」

- 視察に来た町外の団体から

「つどい場を始めることになりました」

協働事業をやってみてわかったこと！

団体を知ってもらうコミュニケーション

⇒ ミッション、活動内容（専門性）、感じている課題、団体の雰囲気などを知ってもらう
日頃のつながりがあれば相談相手になれる

気軽に支援室を活用する（財部さんがおすすめる機能）

⇒ 話をまとめる、整理する、言葉にする
申請書や報告書などの相談・添削
わからない事がわからない時に話しに行く